

# 平成20年度病害虫発生予報第12号

平成21年3月6日  
鳥取県病害虫防除所

## 予報の概要 [参考]

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	ばか苗病 イネシンガレセンチュウ	平年並 平年並	やや少ない 少ない
	ムギ(オオムギ)	うどんこ病 網斑病	早 い -	やや多い やや多い
果 樹	ナシ	黒斑病 ハダニ類 カメムシ類	やや早い やや早い -	平年並 やや多い やや少ない

## 気象予報 (抜粋)

1か月予報(2月28日～3月27日:2月27日、広島地方気象台発表)

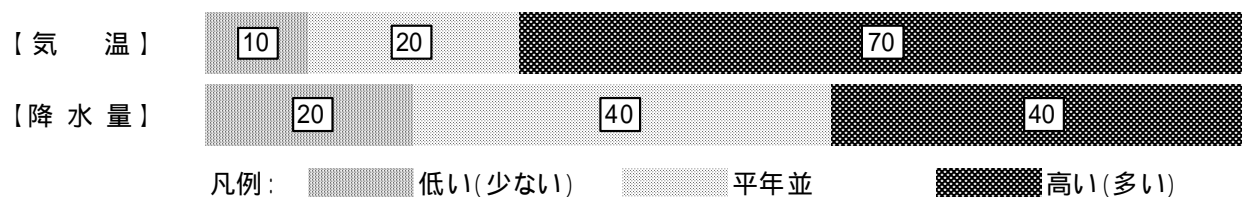
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半を中心に、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

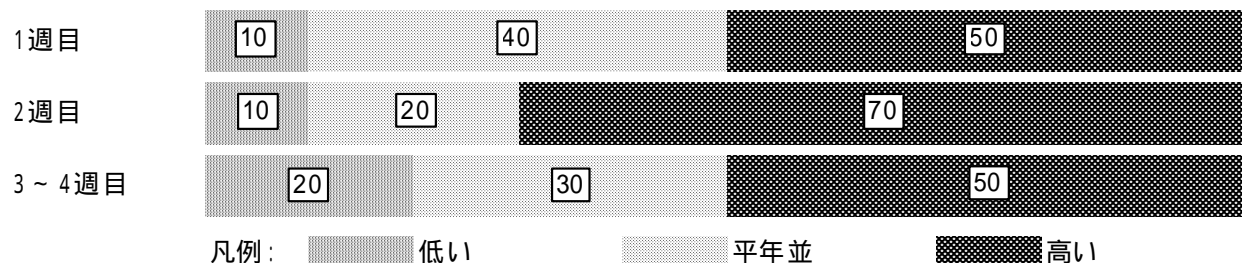
向こう1か月の気温は高い確率70%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率50%、2週目は高い確率70%、3～4週目は高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



## 普通作物

### [イネ]

#### 1 ばか苗病

##### (1) 予報の内容

発生地域 県内全域  
発生時期 平年並(育苗期)  
発生量 やや少ない

##### (2) 予報の根拠

昨年の発生はやや少なかったため、本年用種子の保菌率は低いものと推測される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜水の交換を行う。
- エ 薬剤による種子消毒(浸漬処理)にあたっては、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりをもたせて、十分にかき混ぜる。また、薬液の温度が10以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

#### 2 イネシンガレセンチュウ

##### (1) 予報の内容

発生時期 平年並  
発生量 少ない

##### (2) 予報の根拠

昨年の本虫による葉先枯れ症状の発生は少なかったため、汚染籾率は低いものと推測される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。
- エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので、注意する。

### [ムギ(オオムギ)]

#### 1 うどんこ病

##### (1) 予報の内容

発生地域 県下全域  
発生時期 早い  
発生量 やや多い

##### (2) 予報の根拠

- ア 3月2日現在、一部のほ場で発生が認められており、平年に比べて初発生が早い。
- イ ムギの茎数は、平年に比べてやや多くなっている。

ウ 向こう1か月の気象予報から、本病の発生はやや助長されると予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉色が濃く、過繁茂のほ場では多発の恐れがあるので、注意する。

イ 平成21年度麦栽培指導指針などを参考にして、病気が蔓延する前に防除を行う。

4 網斑病

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月2日現在、発生ほ場率は80.0%であり、昨年12月の調査時(発生ほ場率:27.3%)に比較して、発生が拡大している。なお、現時点における発生ほ場の発病茎率は1~10%程度と低く、また、上位葉への進展も認められていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、本病の発生はやや助長されると予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉色が濃く、過繁茂のほ場では多発の恐れがあるので、注意する。

イ 本病は種子伝染するため、発病ほ場から採種しない。

ウ 平成21年度麦栽培指導指針などを参考にして、病気が蔓延する前に防除を行う。

## 果 樹

### [ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア ナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、短果枝の病芽率及び一年枝上の枝病斑数はほぼ平年並であった。また、病枝率は平年をやや下回った。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 3月中に枝病斑削り取り後のトップジンMペースト原液による塗布作業を徹底して行う。特に、枝病斑は2~3年生部分の側枝に集中して形成されているので、側枝全体をよく見て病斑の削り取りとトップジンMペースト原液の塗布を行う。

イ 3月下旬~4月(発芽期~開花前)になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになるので、この時期に園内を2~3回見回り、短果枝及び腋芽の腐れ芽を徹底して取り除く。

ウ 薬剤は、発芽期にアントラコール顆粒水和剤500倍液を散布する。さらに、りんぼう脱落直前にベルコートフロアブル1,500倍液、開花始めにジラム・チウラムフロアブル(ダイボルトフロアブル又はパルノックスフロアブル)500倍液又はチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックスフロアブル)500倍液を散布する。

## 2 ハダニ類

### (1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

### (2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるクワオオハダニの越冬卵数は平年と比較して多く、過去10年間で最も高い越冬密度となっている。一方、カンザワハダニ及びナミハダニの越冬密度は平年と比較してやや少なかった。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早いと予想される。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 枝、樹皮及び誘引なわ等に越冬虫（あるいは越冬卵）が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想されるため防除を徹底する。

イ 防除は3月15日頃までにハーベストオイル50倍液を散布する。なお、発芽期にアントラコール顆粒水和剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を10日以上あける。

## 3 カメムシ類

### (1) 予報の内容

発生量 やや少ない

### (2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの越冬成虫数（簡易小屋トラップ）は、トラップ当たり3.0頭（平年：8.2頭）と平年と比較してやや少なかった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 山際及び作業小屋周辺では、越冬成虫による幼果の被害が懸念されるので、3月下旬までに果樹園内の小屋をきれいに清掃し、成虫を見つけ次第捕殺する。

イ 例年、春先に加害を受ける園や、昨年秋期に家などにクサギカメムシが多く飛び込んできた地域では、ほ場を定期的に見回るなど注意を怠らないように徹底する。

## **[おしらせ]**

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。  
詳しい内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」(<http://www.famic.go.jp/>) から検索できます。

**農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。**

### **< 鳥取県病虫害防除所ホームページ >**

**アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>**

病虫害発生予察情報や病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病虫害防除所  
〒680-1142 鳥取市橋本 260  
TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647  
E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

次回新年度予報第1号の発表は、平成21年4月9日(木)の予定です。